



# わかやま

No. 8 5

和歌山県精神保健福祉センター

2020年11月

「あなたらしい生活をサポートします」～作業療法士の紹介～

一般社団法人和歌山県作業療法士会  
会長 川 雅弘



作業療法士（OT）は、障がいのある人やこれからの障害が予測される人たちに、地域のなかでの居場所を獲得し、いきいきと毎日を過ごすことができる環境づくりを支援するリハビリテーション専門職です。

医療現場では「リハビリテーションチーム」の一員として、医師や看護師、理学療法士、言語聴覚士などと協業しながら、回復状態に応じて、基本的動作能力や応用的動作能力の改善、さらには社会適応能力の獲得を促しながら、その人の「暮らしやすさ」を取り戻す、あるいは新たに作り出す支援をしています。保健・福祉の現場では、保健師、ソーシャルワーカー、介護支援専門員、介護福祉士など多くの関連職種と協業しながら、高齢者の新たな疾病予防、健康増進の推進や、障害者の地域生活の向上を通じて、その人が、その人なりに日々の暮らしを送れるように、支援を行っています。教育現場では、教師や療育機関と協業しながら、医療の知識を活かして、運動や知的に発達の障害のある子どもの成長を支援し、将来的に地域の中で自立した生活を送るために必要な学びを得られる環境づくりを支援しています。企業・就労現場では、病気や障害があっても仕事に就きたいと思っている人に対して、企業の人事担当者や就労支援を担当するジョブコーチ、就労支援施設担当者や協業しながら、その人の状況に合わせた働き方で就労の現場に適応し、継続して働くことができるような支援を行っています。このように、さまざまな領域で「協業」を通じながら、子どもからお年寄り、未病の方から心身に障害を持たれた方、また、認知症や神経難病、ガン、生活不活発病など、あらゆる年代の方々のその人の生活を支援しています。

さて、精神障害と作業療法の始まりは、18世紀の終わり頃、主に欧米での精神病患者の病院やサナトリウムにおいて、人間の「活動」への欲求に治療的な意味を与えようとする働きかけが生まれ、精神の健康状態を回復させるために“作業”を用いたとされています。わが国では1900年、呉秀三（精神科医）が東京巢鴨病院において、精神障害者に対して無拘束を推し進めながら、人道的かつ組織的に作業を用いたのが本格的な作業療法の始まりと言われています。現在、当会事業では「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムに寄与する作業療法の提供を目指して」をテーマとした重点活動項目も掲げ、地域移行の推進と精神穏やかな状態で地域社会の生活に浸透していけるよう支援体制を構築しているところです。

最後に、当会は県内に従事するOT約490名で構成される職能団体です。前年度まで、全国で唯一養成機関がありませんでしたが、2021年度には養成大学が2校となり、今後はますます作業療法の普及啓発による人材確保と後進の育成に努めていかなければならない責務を強く感じているところです。



和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



◆◆「もくじ」は、2ページ下部にあります◆◆

ウィズコロナの1冊

今年の1月末に始まった国内での新型コロナウイルス感染症は、初期の水際対策と感染爆発の防止ができれば、夏か秋には何とかなるだろうと期待したものでしたが、残念ながらなかなか出口の見えないままで、私たちの生活や活動には大きな影響が続いています。個人的には、3月末から6月にかけて和歌山から一歩も出ない「ステイ in 和歌山」を経験し、その後は国内での活動は徐々に始まったものの、結局日本から出ることはなく、これまでの常識が一変した1年でした。そんなわけで、今年のセンター長だよりもコロナ一色になってしまいました。



そんな中で、10月15日に思春期シリーズ第4弾として『思春期の謎めいた生態の理解と育ちの支援』（福村出版、定価1600円+税）を出版しました。「ステイ in 和歌山」のおかげで短期集中的に執筆することができたので、コロナ禍の副産物といえるかもしれません。今回は親や学校の先生、さらには地域の大人たちが、思春期の子どもを理解して見守るコツをわかりやすく書いてみました。思春期は遙か彼方に霞んでしまった大人にとって、思春期の生態はまさに謎めいていて、そこから戸惑いだけでなく、誤解や対立が生じます。迷える思春期の若者たちにどう向き合うか——大人の役割とできることについて一緒に考えていただければと思います。

おかげさまで、2016年11月に『思春期の子どもと親の関係性』を出版して以来、丸4年で4冊シリーズにすることができました。当初は単発の企画でしたが、次から次へと新たなテーマが現れて、結果的に装丁デザインを統一したシリーズになりました。まだまだ完結しそうにないので、来年以降の新刊もお楽しみに。自宅で過ごすことが多いウィズコロナの秋の夜長、『鬼滅の刃』だけでなく、思春期シリーズ全4冊の一口气読みにもチャレンジしてみてもはいかがでしょうか？



- もくじ P1 「あなたらしい生活をサポートします」～作業療法士の紹介～
- P2 シリーズセンター長だより④／もくじ
- P3～4 精神保健福祉センターメンタルヘルスニュース／ごあんない
- P4～5 精神保健福祉協会ニュース
- P6 はーとふるネットワーク／編集後記



# メンタルヘルスニュース

## 開催報告

### 【ひきこもり支援従事者研修】

令和2年9月11日（金）に和歌山ビッグ愛、10月9日（金）にビッグ・ユアにて、ひきこもり支援従事者研修を開催しました。「ひきこもり者支援の実際」～メンタルサポーターとともに歩む～という演題で、NPO ヴィダ・リブレ理事長の宮西照夫先生（和歌山大学名誉教授／精神科医）、メンタルサポーターの西川雅章先生（9/11）・釜中隆行先生（10/9）より、ひきこもり者への具体的支援方法や留意点、メンタルサポーターの立場から経験談等お話しいただきました。参加者は9月11日24名、10月9日17名でした。当日ご講演いただいた3名の講師先生方、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



### 【アルコール健康障害県民向け講演会】

第1回は令和2年9月5日（土）に東牟婁振興局大会議室にて和歌山県立こころの医療センター院長の森田佳寛先生より講演を、第2回は11月15日（日）に日高川交流センターにて岩出こころの診療所院長の眞城耕志先生より講演いただきました。両日とも、「アルコール健康障害って知っていますか？」という演題で、お酒との正しいつきあい方についてお話しいただきました。その後、アルコール依存症自助グループの方からの体験談や、県立こころの医療センターにおけるアルコール依存症回復支援プログラムについての説明がありました。参加者は9月5日36名、11月15日は39名でした。当日の運営にご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



## ひきこもり関連

# ごあんない

## 令和2年度 ひきこもり一般向け啓発講演会

開催日 令和2年12月18日（金）  
14:00～16:00（開場 13:30）

場 所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛  
1階 大ホール

対 象 どなたでもご参加いただけます

定 員 100名・入場無料（申込先着順）

■演題 『多様化するひきこもりの理解と支援』

■講師 鳥取県立精神保健福祉センター  
所長 原田 豊氏



\*新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、講演会を中止する場合があります。

\*当日参加も可能ですが、定員に達した時点で入場をお断りすることがあります。

\*受付にて体調チェックを行い、体調不良が認められる場合は受講をお断りする場合があります。

## 依存症関連

# 依存症講演会

- 演 題 『アルコール健康障害って知っていますか？』  
講 演 「お酒の飲み方大丈夫ですか？」 講師：県立こころの医療センター院長 森田佳寛 先生  
体験談 当事者による体験談  
取組紹介 県立こころの医療センター
- 日 時 令和3年2月20日（土） 13:30～16:00  
○場 所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 8階会議室（和歌山市手平2丁目1番2号）  
○対 象 どなたでもご参加いただけます  
○定 員 60名・入場無料（申込先着順）  
○その他 新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、講演会を中止する場合があります。  
当日、体温測定や問診票等で体調チェックを行い、体調不良が認められる場合は受講をお断りする場合があります。

## 精神保健福祉協会ニュース

### ご報告

### 令和2年度和歌山県精神保健福祉協会長表彰式

永年、精神保健福祉業務に従事し功績が著名な方と、精神保健福祉の普及啓発や、精神障害者の社会復帰に功績があった方々が、和歌山県精神保健福祉協会から表彰されました。



#### 永年勤続功労表彰

栗本 愛 様	医療法人宮本病院
正木 伸明 様	ひだか病院
細田 英俊 様	県立こころの医療センター

#### 特別功労表彰

糸川 秀彰 様	紀南こころの医療センター
村上 美保子様	有田地方教育相談室「みらい」
栗田 奈津 様	医療法人宮本病院社会復帰部

### 令和2年度『ほっとする笑顔つながるこころの絵』表彰式

和歌山県精神保健福祉協会では、絵をとおして改めてこころの健康を考える機会にさせていただきたいと、見る人のこころが温まる「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」を毎年、県民の皆さんから募集しています。今年度は厳正なる選考の結果、次ページの方々が受賞されました。表彰式は、勤労福祉会館プラザホール4階ホールで開催された「人権を考える協調月間特別講演会第1部」内で行われました。作品は下記の日程で県民交流プラザ和歌山ビッグ愛2階人権啓発センター研修室に作品展示されます。

令和2年11月28日（土）～令和2年12月9日（水） 9:30～17:00

※令和2年12月10日（水）～令和3年3月31日（火）は、和歌山県精神保健福祉センターグループセラピー室に展示します。

# 令和2年度ほっとする 笑顔つながる ころの絵入賞作品

今年度は149名の方から力作をご応募いただき、どうもありがとうございました。応募作品の中から8作品が入賞しました。



最優秀賞  
嶋本 節子 様  
一般（和歌山市）



優秀賞  
長尾 美杏 様  
和歌山県立和歌山商業高等学校



優秀賞  
北野 桜子 様  
近畿大学附属和歌山中学校



入選  
澁田 大輔 様  
自立支援センター とともにー



入選  
西 可奈子 様  
麦の郷紀の川生活支援センター



入選  
東 優人 様  
近畿大学附属和歌山中学校



入選  
大崎 知也 様  
近畿大学附属和歌山中学校



入選  
北野 優心 様  
五月山こども園



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。

今回は、医療法人芳純会潮岬病院 谷 公美さんです。

## はーとふるネットワーク



—精神保健福祉士になられたきっかけを教えてください

精神保健福祉士の資格を取得したのはごく最近のことで、それまでは一般の会社で総務や経理の仕事をしていました。社員の職場復帰支援を担当したのがキッカケで精神保健福祉士の存在を知り「数字と関わるよりも人と関わる仕事に就きたい」と熱望し、福祉職に転職。資格を取得した後、今年の1月に潮岬病院に入職させていただきました。

—医療法人芳純会潮岬病院とは、どんな病院ですか？

他の県内の精神科医療機関のさきがけとして、平成6年にグループホームを、平成16年にJR串本駅傍らにサテライトのクリニックとデイケアを開設した、地域に開かれた病院です。

また、1年前のセンターだよりでもお伝えしたとおり、「スポーツボイス」といった取り組みも行っており、患者様や地域の方々からご好評をいただいております。コロナ禍が落ち着いたら、是非とも見学にお越しください。

—具体的にどのような支援をされていますか？

今年の3月に開設した「地域連携室」に所属しています。新規の患者様への電話相談から予診、入院の手続き、入院患者様やご家族様からの相談対応、転院への調整、施設探しのお手伝いから退院後の介護・福祉サービス利用の調整等退院支援など様々な支援があります。また、他院からの転院相談、行政・介護・福祉サービス事業所からの相談を受けることもあり、連携しての活動機会も多く、色々と助けて頂いています。

—支援に際して苦労されることはありますか？

特に退院支援にはエネルギーを使っています。患者様の思いとご家族の意向が違うことも多く、退院後の環境が整っていないことも課題であり、その調整のために奔走しているという感じです。

また、児童・高齢・教育・就労・司法等色々な分野の方と連携しながら支援を進める必要がありますが、分野間の考え方の違いに戸惑うことがあります。お互いに理解しながら連携できるようになればと思い、合同研修会等に積極的に参加するようにしています。

—支援する際、一番大切にしていることは？

基本的なことなので改めて言うほどではないのですが、患者様ご本人のお気持ちに寄り添うことを一番大切にしています。自分の支援に迷いが出た時、悩んだ時は「患者様とお話すること」。原点はそこにあると思っています。

—今後の抱負について

少子高齢化が進み、この紀南地域の人口も減少の一途を辿っています。毎日の支援の中でも限りある資源をどのように活用するかが課題となります。“今をどう乗り切るか”だけでなく、“今後の地域での医療福祉を見据えて今どうするべきか”“何をすべきなのか”を地域全体で考えていくことが大切だと思います。私自身も日々、忙殺されるのではなく、今何をすべきなのかを常に考えながら精神保健福祉士として尽力できればと思っています。

—最近ハマっていることを教えてください

懸賞でホームベーカリーが当たったのをキッカケにパン作りにはまって11年。毎週末にはパンを焼いています。食パン、バターロールからクロワッサン、ハード系パン、あんぱん、お惣菜パン、塩パンまで。

近年、高級食パンが全国的に大人気らしいですが、私も食パンを極めるためにレシピを考案中です。こねる工程、焼いている間の香り、焼けた時に達成感。イーストは生き物ですし、室温や自身の体温、湿度などによって配合を少し変えることも必要です。自然と対話しながら作り上げるパン作りをこれからも続けていきたいと思っています。

—ありがとうございました。次の方のご紹介をお願いします

医療法人宮本病院の医療福祉相談室の高垣明泰さんをご紹介します。お会いする機会が少ないですが、医療機関の精神保健福祉士としての姿勢や技術を学ばせていただきたい先輩です。今後も病院連携や研修会等と一緒にさせていただき、色々教えていただけたらと思います。それでは高垣さん、よろしく願いいたします。

### 編集後記

早いもので今年も残り僅かとなりましたが、皆さんはこの1年いかがお過ごしだったでしょうか？思えばコロナに振り回され、やり残したことがたくさんあることに気づき、ため息をつく毎日です。来年こそは…と気持ちを切り替えて新しい年を迎えたいものです。その前に大掃除をして家も心もスッキリさせようかな…(カ)